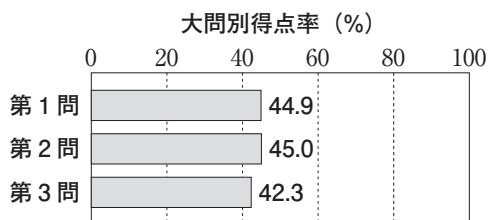
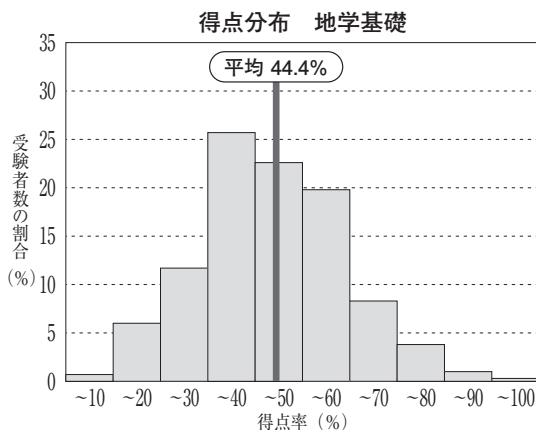


地学基礎

論理の展開を把握しよう。

I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は22.2点であった。4月時点で一通りの学習を終えている受験者も多かったと思われるが、十分に演習を積み、知識を定着できている受験者はまだ少なかったようである。「地学基礎」は「地学」に比べて学習項目が少なく、教科書をしっかりと理解することで十分に満点を狙える科目である。一つ一つの知識を確実に身につけて、着実に得点を伸ばしていくようにしよう。



II. 大問別分析

第1問 地球

図と合わせて知識を整理しよう。

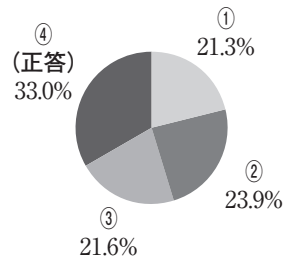
Aでは地球の形と大きさについての基礎的理解を確認した。立体的な図をイメージしながら考えよう。

Bでは地層と示準化石についての理解を確認した。示準化石に関する問題は2018年のセンター試験でも出題されている。代表的な示準化石は名前と時代だけでなく、写真や実物で形や大きさも確認しておこう。

Cでは火山の噴火とマグマの性質についての理解を確認した。解説の図はとても重要なので、よく理解しておこう。

Dでは岩石の成因についての総合的理解を確認した。岩石の循環について、その仕組みを理解しておこう。

問4 各選択肢の選択率



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、
選択率の合計は100%にならないことがある。
以下同様。

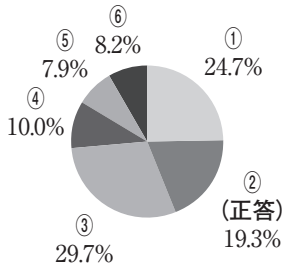
第2問 海流と風

大気と海流の運動の仕組みを理解しよう。

環流と大気の大循環についての総合的理解を確認した。海流と大気の運動は、地球の熱輸送に関わっており、密接に関係している。仕組みを理解し、整理しておこう。なお、大気の動きに関する問題は2018年と2015年のセンター試験でも出題されてい

る。

問1 9 各選択肢の選択率

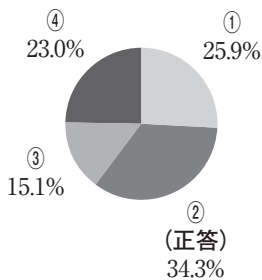


第3問 太陽

太陽のエネルギーに関する知識を整理しよう。

太陽放射の電磁波と太陽の化学組成についての基礎的理解を確認した。太陽からの電磁波に関する問題は2016年のセンター試験で、太陽光のスペクトルに関する問題は2015年のセンター試験で出題されている。太陽の活動や地球への影響などについてもまとめておこう。

問1 13 各選択肢の選択率



Ⅲ. 学習アドバイス

◆センター試験の地学基礎について。

センター試験の「地学基礎」は新しい科目のため過去問が少なく、学習を進めるにあたって不安もあるだろう。しかし、センター試験の出題範囲は教科書に限られている。センター試験で高得点を得るためには、「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を反復し、教科書を徹底理解することが大切である。

◆これからの学習について。

学習にあたって最も大事なことは、地学基礎は暗記科目ではないということである。

「地学基礎」の学習ではまず教科書を通読しよう。教科書を通読したら、今度はできるだけ丁寧に教科書を読んでいこう。大事なことは、各分野それぞれの論理の展開を把握することである。どのような観測や観察、実験がされ、そこからどのような考察がされているのかを理解しよう。そのために、図・表・グラフを正確に読む力をつけていこう。図やグラフを正確に読むためには、それを自分でノートに描いてみるのが大切である。描くことで、見るだけではわからなかったポイントが見えてくるはずだ。また、教科書を読むときは用語を暗記しようとするのではなく、その用語がどのように使われているのか、その論理の道筋を理解するようにしよう。

◆模試を活用しよう。

「地学基礎」にはセンター試験の過去問がまだ少なく、演習量が不足しがちである。そのため、模試を演習の一環として学習を進めていくことが重要となる。2か月ごとに実施される東進のセンター試験本番レベル模試は、全国統一高校生テストも含め年6回で「地学基礎」の出題範囲をすべてカバーするため、学習の進み方と学習の不足点を判定できるとてもよい機会である。今後も模試の受験を継続し、着実に得点を伸ばしていこう。